

時の流れ

2005.02.02

インフルエンザの流行が始まりましたが、いつもの年に比べて軽症のB型が先行しています。全国的にも同じですが、今後の流行がどうなるのか？ひょっとしてB型が先行する年はあまり流行しないなんてことになるのかな？と考えたりもします。といっても、検査でA型、B型の区別が簡単につくようになったのは、この5年ほどですから、実際には以前からあったのかもしれませんが。

1月、小児科は特に外来に来る患者さんが減ります。8月もそうですが、幼稚園や学校など、人と接することが感染症が蔓延する大きな力になっているのを実感します。休みになると外来数が減るのは、寂しいですが、小児科が暇なのは子どもが元気な証拠ですから、しょうがないですね。

開業して1年も経つと、最初にたくさん通院してお馴染さんだった子どもも、だんだんと疎遠。インフルエンザが流行りだして、「お久しぶりだねえ」と来院する子どもがいたり、最近来ないなあって思っていたら、妹や弟を連れて病院に来たりと、時の流れというか成長を感じている今日この頃です。

先日、ちょっとだけ休診にして、旅行に出かけてきました。そこでいちばんビックリしたのは、公共的なところでもあまり時計を見かけないことです。もともと時計をすることが嫌いな私は、もっぱら時刻は携帯の時計で確認します。旅行中は携帯をもって行きませんでしたから、時刻はいつかまったくちんぷんかんぷん。それでもお日様が空高く昇ればお昼に近くなりおなかが空くし、夕方になれば太陽は確実に沈んで行くんです。暗くなるとおいしいものを食べて、お酒をちょっぴりがまた嬉し。ゆったりした時の流れに浸っていると、子どものときは1日が長くて、ほんとにたくさんたくさん遊んでいなぁなんていうことを思い出していました。

今は、子どものうちから早く大人になることを社会全体が望んでいるような気がしてなりません。診察の場面でも、子どもに言うことじゃないけどねえなんて思うことをどんどん子どもに投げかけている保護者の方が多いです。時の流れにさおをさして、自分の思いどおりにすることは出来ませんが、心豊かな成長って「急かさないこと」が一番なのかもしれません。ゆっくり子どもの成長を見守ってあげたいですね。